

郷土にまつわる歴史講座
(協力…明治文庫の会)

塩飽大工・その建築 と彫刻

～塩飽大工を通して塩飽の特別性を知る～

塩飽大工顕彰会

講師 三宅邦夫氏



日時 令和6年1月21日(日)

午後1時30分～3時

場所 マルタス1階多目的ホール

定員 60人 ※先着順でお願いします

料金 無料

問合せ 丸亀市立中央図書館

TEL0877-22-3746



金刀比羅宮

郷土にまつわる歴史講座

令和6年1月21日（日）

午後1時30分～3時

演題 「塩飽大工・その建築と彫刻

～塩飽大工を通して塩飽の特別性を知る～」

講師 塩飽大工顕彰会 三宅 邦夫氏

塩飽と聞くと、廻船や海賊を思い描く方が多いかも知れませんが。実は幕末期の塩飽諸島は3軒に1軒が大工職でした。特に宮大工は京都、奈良の技術を受け継ぎながら独自の彫刻様式を確立しました。現時点で判明している建造物数は、香川県は246で、内93が現存、岡山県は263で、内130が現存しています。善通寺五重塔、備中国分寺五重塔、金刀比羅宮、塩屋別院大門、三谷寺多宝塔、金倉寺大師堂といった名建築や卓越した彫刻について、鑑賞のポイントをご紹介しますながら、塩飽の特別な歴史をご案内いたします。



善通寺五重塔